

◆公園施設の点検資格制度

近年、国内では急速に老朽化する社会資本のメンテナンスを的確に行える専門の技術者の養成が求められるようになってきたことから、(一社)日本公園施設業協会(以降JPFA)は平成27年度から、JPFAが定めた規準等に基づき的確に公園施設の点検を行うことが出来る技術者を、広く一般にも公開し認定・登録する制度を始めています。下記の2資格参照:両資格は国土交通省の「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者登録資格制度」により公園施設(製品)の点検・診断を適切に実施できる技術者資格として唯一登録されています。

公園施設点検管理士 (現在の登録者数:664人) 必要な実務経験や知識を有し、JPFAが実施する公園施設点検管理士認定講習会を受講し、公園施設点検管理士認定試験に合格し、登録された者で、公園施設の定期点検業務において、管理技術者として、関係法令・指針等に基づいて適正に業務を遂行及び管理・統括することができる。

公園施設点検技士 (現在の登録者数:492人) 必要な実務経験や知識を有し、JPFAが実施する公園施設点検技士講習会を受講し、公園施設点検技士認定試験に合格し、登録された者で、公園施設の定期点検業務において、公園施設点検管理士の指導管理・監督のもとで、担当技術者として、関係法令・指針等に基づいて適正に業務を遂行することができる。

第2回 公園施設点検技士・点検管理士認定講習及び試験は、平成28年8月25日～27日、東京農業大学世田谷キャンパスで実施されました。次回は平成29年の同時期に開催予定です。※新設されたのは、従来からのJPFA会員資格(「公園施設製品安全管理士」及び「公園施設製品整備技士」)の講習・試験範囲(公園施設の計画、設計、製造、施工、点検及び修繕)のうち、点検部分だけを抜き出して一般にも公開した資格で、平成27年度からJPFA会員は、新設資格を取得した後に残りの講習・試験を受けて、JPFA会員資格を取得することになっています。



JPFANEWSVol.01・JPFAのHP参照下さい

「平成28年度 さいたま市土木系職員研修」開催の報告

日時:平成28年9月5日(月)9:00～17:00

場所:さいたま市職員研修センター

内容:ランドスケープに関する基礎的な講義を主体に、今日的な話題、事例等も踏まえるとともに、実際に手を動かす演習なども取り入れて、計画・設計から工事・管理にわたる全般について、ランドスケープコンサルタンツ協会の各講師により行われました。

- ・緑とオープンスペースの意義と効用について(講師:狩谷CLA事務局長)
- ・公園緑地行政の仕事と関連制度について(講師:内藤CLA専務理事)
- ・公園の計画・設計について(講師:丸山CLA関東支部代表幹事)
- ・公園工事と管理について(講師:丸山氏、狩谷氏)
- ・公園を取巻く最近の話題について(講師:新井CLA関東支部長)



いきものコラム その19

都心の渓谷林「ケヤキ」

深山に分け入り、岩をつたい小滝をいくつか越えた渓流の奥で、樹高30mはあるとかというケヤキの巨木林を見たことがあります。ごうごうと流れる急流を眼下に、斜面を覆う太枝に跨り、風にそよぐ扇形の樹冠を仰ぎ見ていると、ケヤキという木の本当の姿に触れたような気がしました。

ケヤキは本州以南の各地に分布する落葉広葉樹で、それ自体は珍しい樹木ではありませんが、ケヤキが群生する「ケヤキ林」となると話は別で、特に巨木の多い天然林となると滅多に出会う機会はありません。それは、ケヤキ林の成立適地が主に渓谷の谷壁や川岸のような湿り気のある不安定な立地に限られて



いるからで、そうした場所はもともと少ない上、ダム建設や河川改修などで消失しやすいため、ケヤキ林をいっそう希少なものにしていきます。

一方で、ケヤキは端正な樹形や秋の美しい黄葉が人々に親しまれ、都心でも高層ビルの公開空地等の庭園樹や街路樹として広く植栽される身近な樹木の一つです。本来の生育環境とはかけ離れた都会の高層ビルの谷間や乾いた国道沿いであっても、都市に潤いを提供しつつ、絶え間のない車列の流れの両岸でたくましく枝葉を広げているケヤキたちは、まるで人間の手を借りながら、故郷の渓谷林を再現しているかのようです。

株式会社ブレイク研究所 関元 聡

気になるお店

今回はテーマにちなみ東京駅前で開催されるマルシェを紹介します。

行幸マルシェ

消費者と生産者がつながる市場

東京駅から丸ビルと新丸ビルの間を通り皇居へと続く「行幸通り」の地下通路で毎週金曜日に開催されるマルシェ。全国各地から集まった旬の野菜やくだもの、加工品など、こだわりの品を持ち寄ったお店が通路の両側に並び、周辺のオフィスワーカー、近隣にお住まいの方、観光客でにぎわっています。マルシェを運営する(有)青空市場は、市場本来の姿である“生産する人々”と“買う人々”が直接交流する場をつくりたいと2004年に活動を開始し、2011年から三菱地所と協力して行幸マルシェをはじめ、当初は月1回でしたが今では毎週開催するマルシェになっています。その思い

の通り、あちこちでのお店の方とお客さんがお話しする場面がみられます。東京の真ん中で開催されるマルシェにぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



[左上]マルシェ入口、[右上]にぎわう通路、[下]お店の様子

住所 ● 東京都千代田区丸の内2-4-1 行幸地下通路
 営業時間 ● 毎週金曜日 11:30～19:30
 交通 ● JR東京駅・東京メトロ丸の内線東京駅直結
 ホームページ ● <http://aozora-ichiba.co.jp>

編集後記

今年の秋は平年より台風が多く気温が高いなど、地球の温暖化を身近に感じつつも、秋晴れの日にはつい外出したくなります。まさに、今回の「丸の内仲通りエリアマネジメントとランドスケープ」で取り上げました丸の内仲通りは、散歩コースとして打って付けて、洗練された都会的な街並みと、洒落たアーバンテラスが大変魅力的です。ニューヨークやロンドンと比べものにならない、世界一美しい街並みを是非とも堪能ください。最後に、お話を伺いし写真や地図をご提供いただきました藤井宏章さんに厚くお礼を申し上げます。(和田)

みどりの手帖 Vol.19 2016年10月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 新井 豊
 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階
 TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 和田 淳、加藤 直人、石垣 良弘、泉地 善雄、菊谷 隆、高橋 彰

※ 転載・転用を禁じます。表紙写真/丸の内仲通り

CLA 関東支部情報誌

Vol.19 2016.10

みどりの手帖



特集

ランドスケープのしごと
 「丸の内仲通りエリアマネジメントとランドスケープ」

藤井 宏章さん NPO 特定非営利活動法人 大丸有エリアマネジメント協会 事務局長

CLAの技術・事例特集
 公園施設の点検資格制度

CLA関東支部ニュース
 「平成28年度 さいたま市土木系職員研修」開催の報告



[上] 昼のアーバンテラス / [下] 夜のアーバンテラス

ランドスケープのしごと： 丸の内仲通りエリアマネジメントと ランドスケープ

特 集



リガーレは大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会が策定した「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりガイドライン」の趣旨・内容を尊重しながら、大手町・丸の内・有楽町地区を中心とした地域の活性化や環境改善、コミュニティの形成に関する事業を行い、その成果を多様な人々が享受することによって、地域社会ひいては東京並びに日本社会の活性化に寄与することを目的として活動されています。

リガーレのエリアマネジメント

藤井 宏章

NPO 特定非営利活動法人 大丸有エリアマネジメント協会事務局長



藤井 宏章さん

三菱地所に入社後、1989年より横浜みなとみらいランドマークタワーの開発プロジェクト、1995年より丸ビルの建替え、丸の内再構築のマスタープラン作成、丸の内仲通りの改修、新丸ビルのオープニングプロモーション等を担当。2008年から5年間ロンドンに赴任し、現地でオフィスの取得、開発、管理、売却に携わる。帰国後、不動産ファンド事業担当を経て2016年4月より現職。

●まちづくりをソフト面から推進

経緯を振り返ってみますと、1980年代のこの地区は、街並みは整然としているものの新しい時代に向けて街を再構築する必要がある状況でありました。そのような背景から、1988年三菱地所を始め地区内の地権者が集まって、「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」が設立され、地区の街づくりの方向性の議論がスタートしました。2000年には地権者ととともに官民で将来ビジョンを共有するため、千代田区・東京都・JR東日本と連携し「大手町・丸の内・有楽町まちづくり懇談会」が設立され、同懇談会で官民の合意としての「まちづくりガイドライン」が策定され、街並み・機能配置・景観等のルール化が進められました。

その「まちづくりガイドライン」では、ハード面での街づくりを進めるとともに、街を如何に育てていくか、空間を如何に活用していくか等、街づくりのソフト面の展開も併せて強化していくことが重要であると確認され、2002年に当大丸有エリアマネジメント協会（以下リガーレ）が設立され、地域社会ひいては東京並びに日本社会の活性化に寄与することを目的に、これまで約15年にわたり様々な活動を展開してきました。

●リガーレの活動により「まちの魅力」が向上

リガーレの具体的な活動としては、例えば、地区内企業の協賛金により毎日運行している地域内無料巡回バス「丸の内シャトル」、夏休み期間中、子供たちに企業活動を体験してもらう「エコキッズ探検隊」、環境意識の啓蒙活動としての「打ち水イベン



エコキッズ探検隊

ト」、地区内企業の野球部約60チームが例年参加する「丸の内軟式野球大会」、ボランティアガイドさんによる街案内「丸の内ウォークガイド」等を実施しています。また、リガーレは東京都の「しゃれた街並みづくり推進条例」に基づき登録されたまちづくり団体として、各街区の公開空地で行われるイベント開催を支援しており、オープンカフェ、マルシェ、地域物産展の開催等、本来規制の多い公開空地の有効活用にご貢献しています。公的空間の活用も図りながら街の活性化を推進するリガーレは、当地区の街づくり上、なくてはならない存在になってきていると思っています。そして、それゆえ、その責任も感じています。

●公的空間を活用し「アーバンテラス」を実施

昨年、行幸通り、丸の内仲通りが国家戦略特区路線として指定され、「公的空間活用モデル事業実行委員会」を主体として、積極的に道路空間の活用を図っています。これまで車のための空間であった道路空間を人のための空間としてもっと居心地良く、もっと楽しい場所とするため、「アーバンテラス」と称し、イスやテーブルを設置し、誰もが自由に利用してもらえるようにしています。さらに、アーバンテラスの拡大版として、夏季にお洒落な屋台でアルコールを提供する「サマーナイトラウンジ」を実験的に実施しました。



丸の内ウォークガイド



アーバンテラス

●エリアマネジメント活動の資金確保が課題

リガーレの運営資金の基礎は法人会員・個人会員の皆様からの会費です。その会費収入に加え、各種イベントごとに協会費を募り、実施しています。当協会の活動の一番の支援者は当地区地権者の集まりである街づくり協議会であり、個別企業としては当地区最大の地権者である三菱地所による支援が大きいことは間違いありません。リガーレの活動はあくまでもニュートラルなもので、純粋に街の為に活動しており、そのスタンスであることから多様な企業から支援されていると考えています。

昨今、各地でエリアマネジメント活動の展開が始まっていますが、その財源の確保が、共通の課題となっています。ここ、大手町・丸の内・有楽町地区においても、当協会によるフラッグ等の広告事業が認められ、一つの財源となっていますが、まだまだ自立には程遠い状況です。今後は公的空間の活用に伴うまちづくり協力的な収益も上げて、協会の活動費に充当していければと考えています。

丸の内・大手町の新たなオープンスペース



① 一館広場 ② KITTE ガーデン

●将来ビジョンの共有がエリアマネジメントの原点

エリアマネジメントの活動は、地域毎の特性を踏まえ持続可能な仕組みを検討する必要があります。行政側とも協働して考えていくことが必要です。地元側からでの発意と行政の理解・支援、時には先導、その両輪が重要だと思います。地権者の合意形成という点についてはこの地区の地権者は皆法人で、個人の地権者がいないため、感情的な側面でのぶつかり合いは少ないと思いますが、一方で各々の企業論理の中で合意を取っていくという点で難しい面もあります。建替え予定があるかないか、テナントビルか本社ビルか等により、“街づくり”に対する意識と言う点で企業間での温度差もあります。いずれにしても、どの地域においても、街の将来ビジョンの共有ができないと、街づくりは始まらないと思います。また、街づくりを進めて行く強力な推進役（ここでは三菱地所）の存在も必要です。最初は理解を得ることが難しかった方々も少しずつ街づくりの形が見えてくることで賛同してくれるようになってきます。街づくり協議会は、設立当初、約6割の地権者の方しか参加されていませんでしたが、現在では全ての地権者の方が参加されています。

●エリアの緑化とランドスケープコンサルタンツへの期待

実は、丸の内仲通りのハンギングバスケットによる緑化は、私が三菱地所の街ブランド企画部に所属していました約十五年前に、通りの魅力を高めるため始めたものです。その当時は、車道を利用する事が出来なかったため、歩道の一部を使ってガーデニングショーを実施しました。また、オープンカフェも、社会実験として多くの制約がある中なんとか実施にこぎつけました。その後海外赴任し、数年経って帰国すると、イス・テーブルが車道にも置けるようになり道路もイベント空間として使えるようになるなど街が様変わりしており、当時、将来像として思い描いていた姿が今、実現しつつあり感慨深いものがあります。

整備後は樹木の剪定の考え方も変わり、並木は大きく生育し、現在、気持ち良い木陰もでき、大変美しい街並みとなっています。私は個人的にはこの丸の内は世界でも最も美しい街並みをもったビジネス街であると思っています。仲通りの緑化強化は、ガーデニングショーが発端であり、CLAの方々とのご縁を感じています。仲通りの緑化・花化を更に進める為、ハンギングバスケット以外にも何か新たなアイデアがないか、この地区で働き、訪れる方々が緑化・花化を見て、参加して楽しめる仕組みづくりなど、またご相談できればと思っています。



ハンギングバスケット